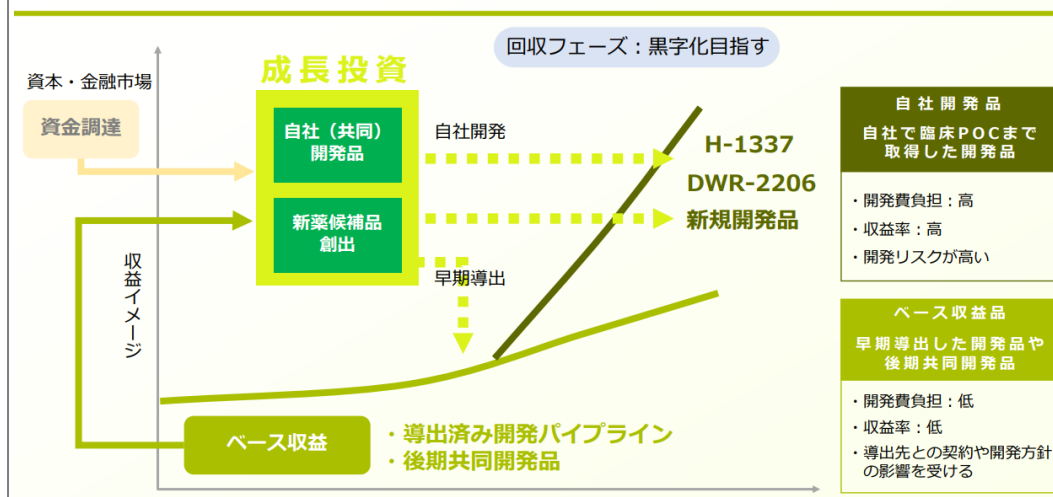


成長投資フェーズから回収フェーズへの移行期に入り、新たな局面へ

サマリー

- ※ SIRは、DWTIが昨年来よりパイプライン開発において大きく前進したことから、成長投資フェーズから回収フェーズへの移行期に入り、新たな局面に入ったと見ている。主な進展としては、以下の通りである。1) 自社開発のH-1337について米国後期第II相臨床試験で良好なトップライン結果を公表しており、緑内障治療薬における第二選択薬のFirst Choiceとして期待大とされている。2) アクチュアライズ社と共同で開発中の再生医療用細胞製品DWR-2206については、日本で第II相臨床試験を開始し、すべての移植手術を完了、3) ライセンスアウト先である興和が開発中のフックス角膜内皮変性症治療剤K-321に関してはグローバル第III相臨床試験における被験者への投与完了、4) ライセンスアウト先のDORCが開発したDW-1002は中国で承認を取得するなどの進展が見られた。5) メドレックス社と共同開発しているDW-5LBTの米国における再申請がFDAに受理された（注：4、5はいずれも25/12期Q1の出来事）。
- ※ 2025年に目標とされる主なイベントは以下の通りである。1) フックス角膜内皮変性症治療剤 K-321のグローバル第III相臨床試験終了、2) 共同開発している神経因性疼痛治療薬リドカイン貼付剤DW-5LBTの米国での新薬承認取得、3) 眼科手術補助剤DW-1002の中国での上市、4) 眼科手術補助剤MembraneBlue-Dual®（DW-1002とトリパンプルーの配合剤）の米国でのオーファンドラッグ指定による優先審査の申請準備完了、5) 再生医療用細胞製品DWR-2206の水疱性角膜症について日本における第II相臨床試験の完了、6) H-1337点眼液の緑内障・高眼圧症に対する「緑内障治療薬の第二選択薬におけるFirst Choice」として、米国第III相臨床試験のための準備継続。
- ※ 同社は今後数年で黒字転換を果たす可能性があり、成長投資フェーズから回収フェーズへの移行が進むと考えられる。このため、株価は今後、上方に動く可能性が高いと思われる。

成長投資と収益イメージ



出所：同社「事業計画および成長可能性に関する事項」より抜粋

Q1 Follow-up



注目点

緑内障や高眼圧症などの眼科疾患のキナーゼ阻害剤メカニズムの研究開発と治療薬の創製に強みを持つ創薬バイオベンチャー。ビジネスモデルを導入品開発とコラボ創薬・共同開発などにまで拡大。

主要指標

株価 (6/2)	122
52週高値(24/12/20)	254
52週安値 (24/8/5)	60
10年間高値 (16/4/19)	883
10年間安値(24/8/5)	60
発行済株式数(百万株)	45.741
時価総額 (十億円)	5.580
株主資本比率(12/31)	62.6%
25/12 PER (会予)	14.0x
24/12 PBR (実)	5.57x

6ヶ月株価チャート(日足)



クリス・シュライバー CFA
アナリスト

research@sessapartners.co.jp



本レポートは株式会社デ・ウエスタン・セラピテクス研究所からの委託を受けてSESSAパートナーズが作成しました。詳しくは巻末のディスクレマーをご覧ください。



25/12期 期初予想

売上高は 前期比72百万円減の400百万円 (同-15.2%)。

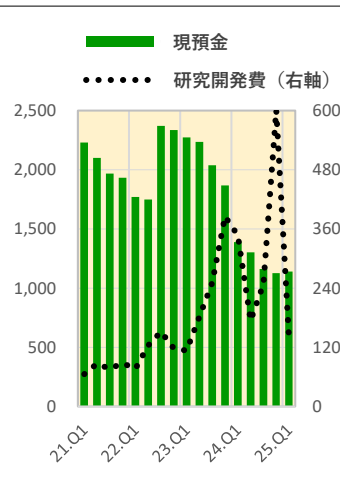
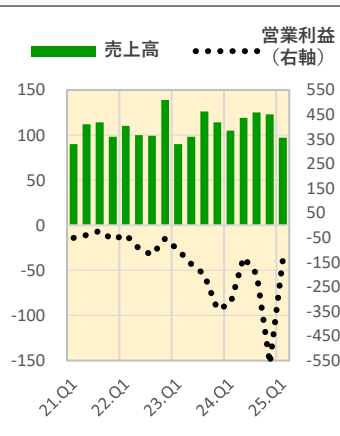
主な要因:

- 主にDW-1002、グラアルファ®のロイヤリティ収入を計上
- DW-1002 (日本) のマイルストーン収入等を見込む
- グラナテック®の国内ロイヤリティ終了により減収見込み

研究開発費は 同-607百万円の760百万円 (同-44.4%)

主な内訳:

- H-1337のP3試験に向けた開発費用 (毒性試験、治験薬製造etc)
- 新薬創出に向けた研究費用 (自社創薬・共同研究) は前期比増加
- DW-5LBTのマイルストーン支払資金およびDWR-2206 (投与完了) にかかる一部費用を含む。



出所: 同社決算短信よりSIR作成
単位: 百万円

パイプライン開発の進捗に注目

H-1337の後期第Ⅱ相臨床試験結果が米国学会 ARVO2025にて発表

決算サマリー

※ DWTIは、5月15日引け後に2025/12期Q1の連結決算を発表した。下表のとおり、グラナテック®点眼液0.4%のロイヤリティ収入が2024年9月に10年の契約期間満了を迎えたものの、ロイヤリティ収入の堅調な推移により、売上高は96百万円と小幅な減少にとどまった。1) 海外では眼科用手術補助剤 DW-1002、2) 国内では緑内障治療剤グラアルファ®配合点眼液のロイヤリティ収入が増加した。研究開発費は、緑内障・高眼圧症治療薬 H-1337の米国後期第Ⅱ相臨床試験終了、水疱性角膜症治療薬・再生医療用細胞製品 DWR-2206の国内第Ⅱ相臨床試験における患者被験者への投与完了などにより、142百万円 (前年同期比 58.9%減) となった。

※ 2024年後半に公表されたH-1337の後期第Ⅱ相臨床試験結果が、2025年5月上旬にARVO (Association for Research in Vision and Ophthalmology) にて発表された。ARVOは世界65カ国以上、約12,000人の会員を擁する世界的権威のある最大規模の眼科学会であり、眼科に関する基礎研究や臨床研究の最先端の発表が行われている。2025年の参加者数は10,900人を超え、世界中から会員の90%以上が参加した。また、DW-1002は2月に中国において承認取得。さらにフックス角膜内皮変性症治療剤 K-321は、2つのグローバル第Ⅲ相臨床試験中であり、そのうちの1つは3月に被験者への投与を完了した。DWTIは過去8ヶ月間に新たな共同研究契約も締結しており、進捗は著しい (詳細は4-7頁のトピックス参照)。

25/12期 Q1連結決算概要

百万円, %	FY24/12	FY25/12	増減	FY24/12	FY25/12	増減
[J-GAAP]	Q1 実績	Q1 実績	金額	実績	期初予想	金額
売上高	105	97	-8	472	400	-72
YoY	16.5	-7.7	-	10.1	-15.2	-
売上原価	9	10	1	47		
売上総利益	96	87	-9	425		
販売管理費	414	229	-186	1,634		
・研究開発費	347	143	-204	1,368	760	-608
対売上高比率	331%	147%	-	290%	190%	
・その他販管費	68	86	19	267		
営業損益	-319	-142	177	-1,210	-670	540
経常損益	-320	-150	171	-1,228	-680	548
親会社株主に帰属する当期純損益	-321	-150	171	-1,290	-680	610
主要B/S指標	[Q1 実績]		◀◀	[Q4 実績]		
・現預金	1,141	15		1,126		
資産合計		1,600	-69	1,669		
負債合計		599	-337	936		
純資産合計		1,001	267	734		
自己資本比率		62.60%	-	43.90%		

出所: 同社決算短信および決算説明資料よりSIR作成

*注: SIRでの財務データ処理は短信規定と異なるため記載数字は会社資料と相違することがある。



H-1337の後期第Ⅱ相臨床試験結果が米国学会 ARVO2025にて発表

※ DWTIは、原発性開放隅角緑内障または高眼圧症患者の眼圧上昇を治療するH-1337点眼液の後期第Ⅱ相臨床試験の主要結果を2024年11月18日に発表した。本試験は、緑内障・高眼圧症患者201名を対象とした多施設共同、無作為化、二重盲検、実薬対照の用量設定試験であり、被験者は2023年8月～2024年8月の間で28日間、点眼を行った。本試験は、H-1337の3つの用量（0.6%：1日2回投与、1.0%：1日2回投与、1.0%：1日1回投与）と対照薬としてチモロール点眼液0.5%（1日2回投与）について、安全性と眼圧降下効果を評価することを目的としてデザインされた。H-1337の3つの用量はすべて、臨床的かつ統計学的に有意に眼圧を最大30%低下させ、これは対照薬であるチモロールと同等の範囲だった（ $p<0.001$ ）。

「i3：革新と知性で切り拓く視覚科学の未来」



出所：<https://www.arvo.org/annual-meeting/meeting-info/past-annual-meetings/>

2024年12月期通期 パイプラインの現況

上市品		地域	現況
グラナテック（単剤）		日本・アジア	日本は9月ロイヤリティ終了
グラアルファ（配合剤）		日本・アジア	国内販売好調、タイ承認
DW-1002（単剤）		欧州・米国等	販売好調
DW-1002（配合剤）		欧州等	//
開発品		地域	現況
K-321		米国等	グローバルP3実施中⇒現在進行中の2つのグローバル第Ⅲ相臨床試験のうち、同時手術の被験者への投与完了。2025年10月末までに被験者の経過観察が終了予定。
DW-1002	配合剤	米国	
	単剤	中国	当局による審査中、 2025年2月19日承認取得
		日本	申請に向けて当局と交渉・検討中
DW-1001		日本	
H-1337		米国	8月P2b患者投与完了、11月トップラインデータ公表
DW-5LBT		米国	1月再申請、7月CRL受領 ⇒ 2025年3月25日 NDA再提出
DWR-2206		日本	3月P2治験計画届書提出、12月患者投与完了

出所：同社決算説明資料よりSIR作成。赤字の項目は、2025年2月10日付の決算発表と共に発行されたIR決算説明会資料より後に発表されたものである。



産学連携共同研究プロジェクトにおける最近の動向

※ 昨秋以降、産学連携による共同研究プロジェクトに関する発表が相次いでいる。その内容は、自社開発候補品を中心としたもの、他社開発候補品を中心としたもの、眼科関連、その他の医療分野など多岐にわたる。DWTIは、様々な大学や企業との連携を通じて、コア技術の価値最大化を図るとともに、緑内障治療薬をはじめとする眼科領域の専門性を活かした事業の開発・拡大を目指している。同社は、これまでも共同研究に積極的に取り組んできており、パイプラインの開発は着実に進展しているが、今後パイプライン進捗と併せて基礎研究に関する情報開示の拡充にも努めていくことで、同社に対する理解と認知の向上を目指していく。

※ [2025年5月15日] ラクオリア創薬株式会社（東証グロース 4579）との共同研究における成果が良好

この共同研究は2022年12月に始まり、ラクオリア創薬はイオンチャネル創薬技術を活かして特定のイオンチャネルを標的とした化合物群の合成を担当し、DWTIは眼科領域での評価技術を活かして薬効薬理試験等による眼疾患治療薬としての可能性の検証を行ってきた。その結果、網膜疾患の動物モデルにおいて良好な薬理作用が確認された。共同研究は、現在も継続中である。

※ [2025年5月15日] 白内障の新規治療薬創出に向けた福井大学との共同研究契約を延長

2024年に締結された白内障の予防及び治療薬創出に向けた福井大学との共同研究契約について、DWTIはその契約が延長されたことを発表した。白内障は眼の中にある水晶体が濁り、視力が低下する疾患である。加齢や外傷、その他の病気などで発生し、国内では60代から急増すると言われている。現在は手術による治療が主であり、手術件数は年間約160万件を超えるとされ、年々増加傾向にある。本共同研究では、白内障の手術に代わる新たな点眼薬の創出を目指す。

※ [2025年4月30日] DWTI化合物を対象にした生活習慣病に関わる新規治療薬創出に向けた三重大学との共同研究契約を締結

本共同研究では、DWTIの低分子化合物を活用し、三重大学ゼブラフィッシュリサーチセンターによる生活習慣病関連疾患モデルのゼブラフィッシュを用いて、その薬効効果を評価する。ゼブラフィッシュは魚類だが、遺伝子数はヒトとほぼ同じで、主要臓器・組織の発生・構造もヒトと良く似ている。また、受精卵から分化して各臓器が形成される過程が透明な体を通して観察できるため、蛍光物質を結合させた生体内小分子を可視化することができる。さらに、マウス等のげっ歯類を利用した動物試験に比較すると1化合物あたり1,000分の1以下になることが試算されており、「ゼブラフィッシュスクリーニング」が効率的なスクリーニング技術として新薬開発プロセスに用いられている。DWTIは、キナーゼ阻害剤の創製技術において優れた実績を持ち、主に眼科領域でその技術力を発揮してきた。その一方、キナーゼ阻害剤は多くの疾患領域に対する有効性が示されていることから、自社化合物のポテンシャルを最大限に引き出すべく、本共同研究を推進していく。



※ [2025年4月28日] 新たな眼疾患治療薬創出に向けた次世代製剤開発に関する共同研究を東北大学笠井教授と開始

本共同研究では、有機ナノ材料やナノ薬剤を専門とする笠井均教授と共に、眼疾患治療薬に適した次世代の製剤開発を行う。新たな製剤では、薬効の増強や眼内移行性を高めること等を目的としている。DWTIは現在、眼科領域に注力しているが、眼の病気には様々な種類があり、網膜色素変性症、糖尿病網膜症、加齢黄斑変性症などの網膜疾患は未だ適切な治療薬が充足しておらず、アンメット・メディカル・ニーズが高い疾患とされている。白内障など手術が治療の第一選択となっている疾患については、薬剤を用いた治療のニーズは高い。これらの病気に悩んでいる患者は年々増加傾向にあり、新たな治療薬創出に向けた次世代の製剤技術は重要な研究テーマであるとDWTIは考える。

※ [2025年3月27日] DWTI化合物を対象にした新たな統合失調症治療薬創出に向けた名古屋大学との共同研究契約を締結

統合失調症は人口の約1%が罹患する重篤な精神疾患である。特徴として、幻覚・妄想などの陽性症状、意欲の低下などの陰性症状、および認知機能障害を伴う。現在主流となっている脳内ドーパミン系に作用する治療薬では、患者の20~30%は十分な治療効果を得られない難治性であることが課題になっている。本共同研究では、DWTI創製の低分子化合物を活用し、名古屋大学大学院医学系研究科精神疾患病態解明学の尾崎紀夫特任教授が、日本医療研究開発機構 (AMED) の支援を受けて得られた成果を基盤とした連携のもと、統合失調症に対する新たな作用機序を有する革新的治療薬の可能性を追求する。

※ [2025年1月28日] 網膜変性疾患等の治療薬創出に向けた九州大学との共同研究契約を締結

本共同研究では、網膜変性疾患や眼炎症疾患に対する新たな治療薬の創出を目指し、DWTI創製の低分子化合物等を用い、九州大学において評価を進める。網膜変性疾患は、徐々に視力や視野が低下する病気である。特に網膜色素変性症は有効な治療法が未だ確立されておらず、早期発見が視機能維持に結び付いていない。また、眼炎症は、痛みや充血等が発生し、その後、視力が低下したり視野の異常が現れたりする。主な治療法は点眼剤の投与となるが、重症化した際には手術が必要な場合があり、早期発見・治療が望まれている。

※ [2024年12月27日] DWTI化合物を対象としたがん領域における新たな治療薬創出に向けた北里大学との共同研究契約を締結

本共同研究では、北里大学医療衛生学部病理学教室において、臓器非依存的に腫瘍で発現亢進し、腫瘍悪性化と相関関係にある新規治療ターゲット因子の機能解析を進めるとともに、DWTI化合物の新たな作用機序を持つがんへの適用可能性を評価する。DWTIはキナーゼ阻害剤の創製に強みを持ち、創薬研究活動を積極的に進めている。現在、眼科領域に注力しているが、キナーゼ阻害剤は様々な疾患に対して有用性が示されている。



※ [2024年12月25日] 東京都医学総合研究所と眼疾患を対象にした新たな遺伝子治療薬に関する共同研究契約を締結

公益財団法人 東京都医学総合研究所（以下、都医学研）は、視覚病態プロジェクトにおいて網膜・視神経の保護と再生による視覚障害の治療法開発にフォーカスしている。本共同研究契約は都医学研が有する緑内障に対する遺伝子治療に関するもので、視機能改善が期待できる。また、本共同研究により、都医学研の有する視神経保護再生遺伝子治療の開発に向け、DWTIおよび都医学研においてその有効性と安全性評価を進展させていく。

※ [2024年12月16日] ドライアイ治療薬創製に向け、第一工業製薬株式会社（東証プライム：4461）と共同研究を開始

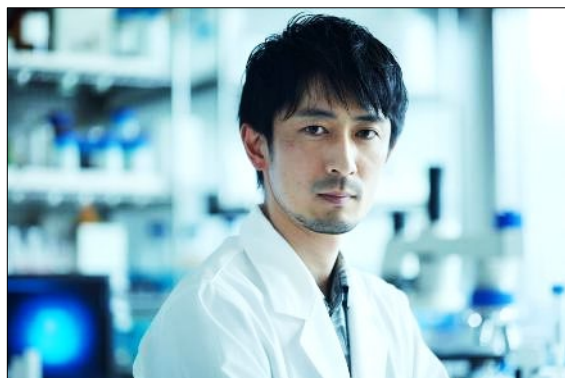
DWTIは、第一工業製薬株式会社（以下「第一工業製薬」）との間でドライアイ治療薬創製に向けた共同研究契約を締結した。本共同研究の役割分担としては、第一工業製薬は115年の歴史を通じて培ってきた合成技術を基盤とした創薬技術を活かして化合物（以下「本化合物」）の合成を担当する。DWTIは自社の眼科領域での評価技術を活かして薬効薬理試験などを行い、本化合物のドライアイ治療薬としての可能性を検証する。「ドライアイ診療ガイドライン」（ドライアイ研究会診療ガイドライン作成委員会、2019年）によるとドライアイは、「様々な要因により涙液層の安定性が低下する疾患であり、眼不快感や視機能異常を生じ、眼表面の障害を伴うことがある」と定義されている。近年では患者数が2,200万人以上（ドライアイ研究会による）とされており、高齢化やスマートフォンなどのデジタル機器等の普及に伴い、さらに増加すると予測されている。

※ [2024年11月26日] ED治療薬の開発に関する名古屋市立大学との共同研究契約を延長

DWTIは、2023年より公立大学法人名古屋市立大学（以下、名市大）と、新たなED（勃起不全）治療薬の研究開発を目的とした共同研究を行っていたが、両者はその共同研究契約を延長することを決定した。キナーゼ阻害剤は様々な疾患に対して有用性が示されており、主には抗がん剤で使われている他、神経系、炎症系等においても検討が進められている。検討の結果、正常および病態モデル動物において顕著な有効性を示したことから本共同研究の延長を決定し、契約延長後には追加データを取得し、DWTI化合物のさらなる評価を進めていく。

※ [2024年10月17日] 緑内障手術に関わる新たな治療薬に向けた東京大学との共同研究契約を締結

緑内障の第一治療は点眼剤の投与となっている。しかし、点眼では効果が不十分な場合や進行状況によっては、レーザー治療、緑内障手術を行う場合がある。緑内障手術は、術後に重篤な合併症を引き起こす可能性があるだけでなく、その後、眼圧が安定しない状態が続いたり、経年的な機能不全に至り再手術が必要になる等、十分な作用が見込めていない。DWTIは東京大学の2名の教授とともに、緑内障手術に関わる画期的な新規点眼剤の開発を目指した共同研究を行う。DWTIは、すでに緑内障治療用の点眼薬としてグラナテック®およびグラアルファ®を開発しているが、緑内障手術に関連する治療法の研究を進めることにより緑内障患者に多様な治療選択肢を提供することになると考えている。



* 各パイプライン候補の現在の開発状況の詳細については、2025年4月21日付のSESSAパートナーズ(株)による「フルレポート」を参照
https://www.sessapartners.co.jp/_files/ugd/796b06_330e342803ea4e6e923513924037c334.pdf



上市品

製品名等			対象疾患	地域	ライセンスアウト先
DW-1002	ブリリアントブルー-G	ILM-Blue [®] 、TissueBlue [™]	内境界膜染色	欧州・米国等	DORC
	ブリリアントブルー-G/トリパンブルー	MembraneBlue-Dual [®]	内境界膜、網膜上膜及び増殖硝子体網膜症における増殖膜染色	欧州等	
リバスジル塩酸塩水和物／ブリモニジン酒石酸塩			グラアルファ [®] 配合点眼液	緑内障・高眼圧症	日本 興和

(注) 日本は9月にロイヤリティ受領期間が終了。アジアは一部地域についてロイヤリティを受領している。

開発パイプライン

開発コード等		対象疾患	開発段階	地域	ライセンスアウト先
K-321	リバスジル塩酸塩水和物	フックス角膜内皮変性症	第Ⅲ相臨床試験	米国、欧州等	興和
DW-1002	ブリリアントブルー-G	内境界膜染色	承認	中国	DORC
		水晶体前囊染色	第Ⅲ相臨床試験	日本	わかもと製薬
	ブリリアントブルー-G/トリパンブルー	内境界膜及び網膜上膜染色	第Ⅲ相臨床試験	日本	
DW-1001		眼科用治療剤（非開示）	申請準備中	米国	DORC
H-1337		緑内障・高眼圧症	第Ⅰ相臨床試験	日本	ロート製薬
			後期第Ⅱ相臨床試験	米国	自社開発

開発パイプラインの進捗計画

パイプラインの名称等		地域	2024	2025	2026	2027
H-1337	緑内障治療剤	米国	P2b		P3準備及びライセンスアウト活動	
K-321	フックス角膜内皮変性症	米国		P3	申請 ※2026年以降	
DW-5LBT	帯状疱疹後の神経疼痛	米国		再申請 承認	上市	
DW-1001	眼科用治療剤	日本		開発計画未定	※ライセンスアウト先のロート製薬の方針により、今後の開発計画を検討中	
DW-1002	内境界膜染色	中国	申請	承認	上市	
	内境界膜染色 水晶体前囊染色	日本		申請	承認	上市
	内境界膜及び網膜上膜染色	米国		申請準備	申請	承認 上市
DWR-2206	水疱性角膜症	日本	非臨床	P2	P3	申請
		中国			臨床試験	※2025年から臨床試験の開始を計画

※上記計画は、ライセンスアウト先が想定する開発計画もしくは当社予想に基づく開発計画であり、実際の開発進捗と相違する可能性があります

出所：同社決算短信および算説明資料より抜粋



パフォーマンスと
バリュエーション
SESSA スマートチャート

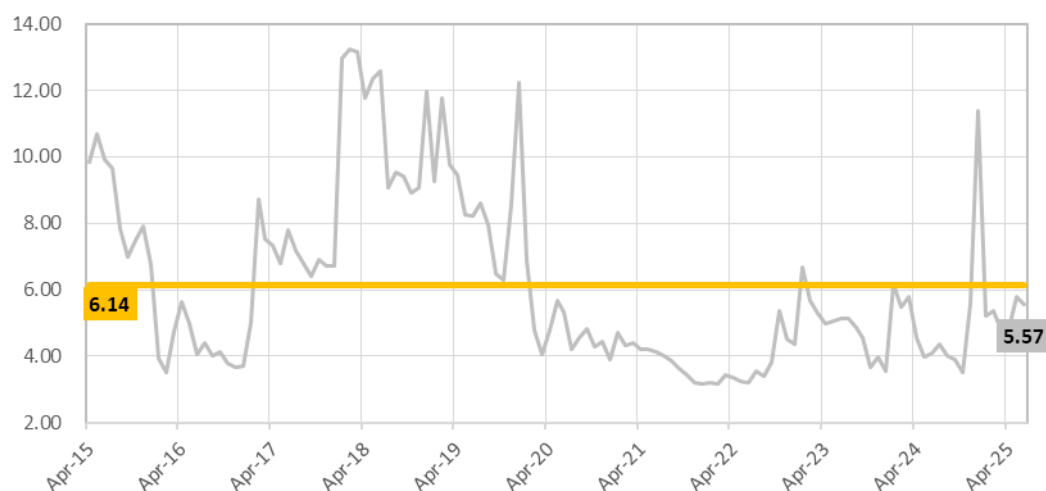
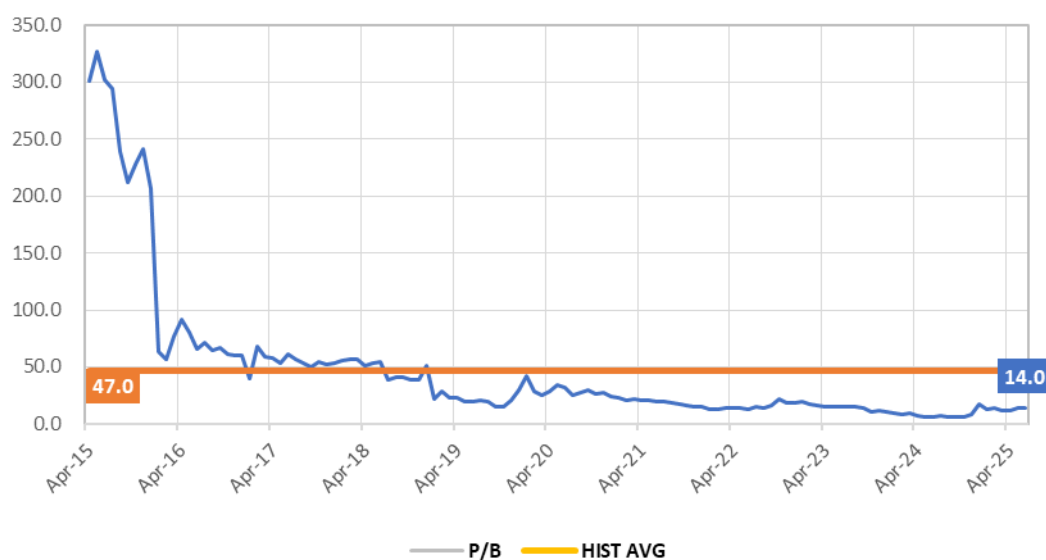
✓ 現在、株価のPSRは過去平均を70%下回る水準で推移しており、PBRは過去平均を9%下回っている（なお、期末のバランスシートには、すべての新株予約権(SAR)が行使された場合に調達される資金の全額は反映されていない）。

✓ バリュエーションがレンジの下限で推移するなかで、H-1337、DWR-2206およびDW-1002で進捗が見られれば、DWTIの株価は再注目を集める可能性がある。



Analyst's view

株価チャートとバリュエーション推移（10年・月足）



出所：SPEEDAデータよりSIR作成。バリュエーションは会社予想とLTM（直近12ヵ月の業績）に基づく

デ・ウエスタン・セラピテクス研究所 連結財務ハイライト

損益計算書—主要財務指標推移

〔日本基準〕	FY15/12	FY16/12	FY17/12	FY18/12	FY19/12	FY20/12	FY21/12	FY22/12	FY23/12	FY24/12	FY25/12
百万円、%	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	期初予想
売上高	62	168	254	293	581	356	414	448	428	472	400
前年比	—	171.8	51.2	15.3	98.2	-38.7	16.5	8.1	-4.4	10.1	-15.2
地域別											
・日本	62	168	190	158	417	184	175	227	151	136	
・欧州	—	—	64	97	88	107	170	221	278	335	
・米国	—	—	—	38	75	59	70	—	—	—	
・その他（東南アジア）	—	—	—	—	—	5	—	—	—	—	
主要な顧客別											
・興和株式会社	62	97	120	139	158	166	172	171	140	126	
・わかもと製薬株式会社	0	50	50	—	209	—	—	—	—	—	
・Dutch Ophthalmic Research Center	—	—	64	97	88	107	170	221	278	335	
・Glaukos Corporation	—	—	—	38	63	59	70	—	—	—	
主要な顧客合計	62	147	234	274	518	332	412	392	418	462	
その他	0	21	20	19	62	24	2	57	10	10	
売上原価	0	6	7	14	26	17	20	28	37	47	
売上総利益	62	162	247	279	555	339	394	421	392	425	
販売費および一般管理費合計	352	482	880	1,066	437	604	566	726	1,190	1,634	
・研究開発費	144	227	603	795	249	351	316	470	931	1,368	760
売上高に占める比率	232.6%	135.1%	237.5%	271.5%	43.0%	98.6%	76.3%	104.8%	217.2%	290.0%	190.0%
・その他	209	255	277	270	188	254	250	257	260	267	
減価償却費	3	18	45	52	44	44	45	46	49	49	
のれん償却費	13	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
EBITDA	-274	-302	-589	-735	162	-222	-126	-260	-750	-1,160	
営業利益又は営業損失	-291	-320	-634	-786	117	-266	-172	-306	-799	-1,210	-670
経常利益又は経常損失	-295	-304	-669	-797	110	-290	-160	-296	-796	-1,228	-680
減損損失	0	0	1,040	7	0	0	0	0	6	0	
親会社株主に帰属する当期純利益	-296	-254	-1,563	-749	133	-276	-149	-430	812	-1,290	-680

バランスシート、キャッシュフロー計算書—主要財務指標

・現金および預金	1,747	2,292	2,133	1,584	1,541	2,308	1,934	2,335	1,867	1,126
・売掛金	23	41	61	71	104	92	102	171	117	125
流動資産合計	2,025	2,776	2,516	1,764	1,716	2,503	2,162	2,659	2,138	1,475
契約関連無形資産	—	—	329	288	247	206	165	123	82	41
固定資産合計	115	136	362	309	266	234	301	297	235	194
資産合計	2,140	2,913	2,877	2,074	1,981	2,738	2,463	2,956	2,373	1,669
1年内返済予定の長期借入金	—	—	—	120	120	120	130	120	10	19
流動負債合計	27	36	156	268	189	210	193	211	194	133
無担保転換社債型新株予約権付社債	—	—	—	—	—	—	—	735	606	—
長期借入金	—	—	600	480	360	340	210	113	269	476
固定負債合計	—	—	625	505	384	364	234	872	900	803
負債合計	27	36	782	774	573	574	428	1,083	1,094	936
・資本金	2,400	2,945	3,365	35	35	557	573	714	832	1,203
・資本剰余金	2,390	2,935	3,355	2,133	2,133	2,656	2,631	2,772	2,890	3,262
・利益剰余金	-2,904	-3,157	-4,721	-908	-775	-1,051	-1,200	-1,630	-2,442	-3,733
株主資本合計	1,886	2,723	1,999	1,260	1,393	2,161	2,004	1,857	1,279	732
新株予約権	30	16	2	—	—	3	3	1	1	2
非支配株主持分	196	139	95	40	15	—	28	16	—	—
純資産合計	2,113	2,877	2,096	1,300	1,408	2,164	2,035	1,873	1,280	734
自己資本比率	88.1%	93.5%	69.5%	60.8%	70.3%	78.9%	81.4%	62.8%	53.9%	43.9%
負債純資産合計	2,140	2,913	2,877	2,074	1,981	2,738	2,463	2,956	2,373	1,669
営業活動によるキャッシュ・フロー	-323	-334	-797	-540	176	-216	-176	-355	-587	-1,299
投資活動によるキャッシュ・フロー	835	-231	-763	-8	-100	-13	-111	-140	-15	-10
財務活動によるキャッシュ・フロー	98	1,067	1,407	—	(120)	1,004	(104)	867	134	568
現金および現金同等物の期首残高	1,167	1,767	2,292	2,133	1,584	1,541	2,308	1,934	2,335	1,867
現金および現金同等物の期末残高	1,767	2,292	2,133	1,584	1,541	2,308	1,934	2,335	1,867	1,126
1株当たり純資産	83.49	109.96	76.14	47.95	53.02	73.88	68.27	60.14	39.81	17.59

出所：同社決算短信、会社決算説明資料よりSIR作成。

ディスクレーマー／免責事項

本レポートは対象企業についての情報を提供することを目的としており投資の勧誘や推奨を意図したものではありません。本レポートに掲載されたデータ・情報は弊社が信頼できると判断したのですが、その信憑性、正確性等について一切保証するものではありません。

本レポートは当該企業からの委託に基づきSESSAパートナーズが作成し、対価として報酬を得ています。SESSAパートナーズの役員・従業員は当該企業の発行する有価証券について売買等の取引を行っているか、または将来行う可能性があります。そのため当レポートに記載された予想や分析は客観性を伴わないことがあります。本レポートの使用に基づいた商取引からの損失についてSESSAパートナーズは一切の責任を負いません。当レポートの著作権はSESSAパートナーズに帰属します。当レポートを修正・加工したり複製物の配布・転送は著作権の侵害に該当し固く禁じられています。

SESSAパートナーズ株式会社

東京都港区麻布十番2-8-14 i-o Azabu 5a
info@sessapartners.co.jp